

「建築ジャーナル」2007年4月号に掲載されました、第5回林雅子賞の記事を紹介いたします。

学生作品

絵本の温かみが建築と地域のネットワークに波及

第5回林雅子賞公開選定会・選定委員長に妹島和世氏を迎えて

第5回林雅子賞が、2月24日、日本女子大学新泉山館（東京・目白）で開かれた。この賞は、日本女子大学住居学科1回生である林雅子を記念し、優れた女性建築家の育成と本学住居学科の発展のために、2002年に創設された。同大学住居学科同窓会「住居の会」が選定会を主宰、本年度から公開による選定会に改め、選定委員長には本学の卒業生である妹島和世氏、選定委員には林昌二、定行まり子、片山伸也、永峰麻衣子の各氏が務めた。

応募作品は、2006年度の卒業制作および修士制作の計9点。発表者は、図面、模型、

パワーポイントを使って、持ち時間6分でプレゼンを行った。住宅、公共空間、都市計画、再生計画など、テーマは多岐にわたるが、林昌二氏は「建築の単体を溶解し、建築とまちのつながりに向かっている」と全体を総評した。

当日、ロンドンから帰国したばかりの妹島氏は、時差の疲れも見せず、各発表者に質問を求め、丁寧に解説。一方、プレゼンが制限時間で発表することに重点が置かれ、作品の見せ場のアピールが弱いと鋭く指摘した。

選定は難航の末、加藤真弓さんの作品「Dream - 絵本と子ども・三鷹市における絵

本館の提案 - 」が選ばれた。多くの絵本作家が在住する東京・三鷹市に、絵本館をつくり地域コミュニティーを促す提案だ。妹島氏は「敷地の形状を活かしながら、絵本の持つやわらかみと広がりを感じさせる説得力のある提案」と評価。加藤さんは、「ワークショップをきっかけに三鷹市を知り、絵本の奥深さを見直した。絵本から受ける温かい感情を作品に反映させた」と喜びを語った。

写真キャプション

加藤真弓さんの作品「Dream - 絵本と子ども・三鷹市における絵本館の提案 - 」

